

# 鶴来打刃物

## 歴史と特色

鶴来町は、やい刃の劔(つるぎ)と書かれたほど、刃物鍛冶が盛んで、江戸時代には加賀藩御用鍛冶をつとめた刀工一鉄も出た。また、白山麓と平野部との物資の集散地としても栄えた町で、農耕用から山林用、家庭用まで幅広い製品が作られていた。

明治以降も数軒あったが、現在"火作り"している鍛冶屋は1軒だけで、注文に応じ手作りの伝統を今に伝えている。

技法はほとんど昔のままで、松炭がコークス、ふいごが送風機に代わったぐらいで、稀少な野鍛冶である。

## 歴史與特色

鶴来町の“鶴来”字也被寫作“劔”字，江戸時代起刀具的打製冶煉非常盛行。製品從農耕用具到山林用具、家庭用刀具等，範圍非常廣泛。同時，鶴来町作為物資集散之地也非常繁榮。只是現在鐵匠鋪僅有一家，根據訂單也會進行手工打製，其傳統一直傳承至今。

### 情報 資訊

主な生産地(主要産地)	白山市(白山市)
主な製品名(主要産品名)	クワ、カマ、ナタ(鐵鋤、鐮刀、劈刀)
主な生産者(主要生産者)	太田打刃物製作所(太田打刃物製作所) 〒920-2121 白山市鶴来本町4-2-5(白山市鶴来本町4-2-5) TEL (076)272-0111

## 歴史と特色

江戸で袷に小紋がつけられたのは1750年頃と言われ、その後金沢でも始められ文化年間(1800年頃)には型付職人14人と記録も残っており、型紙も彫られていたと思われる。

武家や町人の袷や慰斗目用として、小さな点で構成された模様で、型紙を使って染め上げられたが、その後次第に改良され、小柄、中柄、模様の大小などを彫り込み、加賀小紋として現在も伝えられている。また、明治の後半、友禪柄が型で染められるようになり、より複雑な型が彫られ、一枚の着物に400枚以上の型を作る場合もある。一色に1枚の型紙が必要なため、正確に同じ模様を何枚も彫り、染めを重ね何枚か続けて連続模様にするなど高度な技術を誇るが、型紙職人は細かい、根気のいる仕事の割に地味な裏方であるため、後継者は少ない。型紙に使う紙は伊勢形紙を使用し、文様を彫刻した後、漆で囲めたものと、漆を用いて紗とはり固めたものがある。

## 歴史與特色

從封建時代開始製作一種叫做“小紋”的簡樸和服用紙樣。到了近代，友禪和服的圖案開始用紙板印染，因為一種顏色就需要一張紙板，要染制一件和服，就需要能正確地印製出數百張相同圖案的紙板技術。紙板的材料是使用和紙，再用漆和布加固。

### 情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	手捺染型紙(手工印花紙板)
主な生産者(主要生産者)	安田染型店(安田染型店) 〒920-0865 金沢市長町2-7-19(金澤市長町2-7-19) TEL (076)223-3886